

ウズベキスタン共和国 (Republic of Uzbekistan)

1. 一般事情

面積	44万7,400 km ² (日本の約1.2倍)
人口	2,890万人 (2013年: 国連人口基金)
首都	タシケント (Tashkent)
民族	ウズベク系 (78.4%)、ロシア系 (4.6%)、タジク系 (4.8%)、タタール系 (1.2%) (対外経済関係投資貿易省)
言語	公用語はウズベク語 (テュルク諸語に属する。但し、タシケント、サマルカンド、ブハラ等主として都市の諸方言はペルシア語の影響を強く受けている)。またロシア語も広く使用されている。
宗教	主としてイスラム教スンニ派

2. 政治体制・内政

政体	共和制
元首	イスラム・カリモフ大統領 (2007年12月再選、任期7年)
議会	二院制 (任期5年、上院:「セナート」(定数100)、下院:「立法院」(定数150)、前回選挙は2009年12月)

3. 経済

主要産業	綿繊維産業、食品加工、機械製作、金、石油、天然ガス
国民総生産 (GDP)	511.9億ドル (2012年: IMF)
一人当たり GDP	1,367.1ドル (2010年: IMF)
経済(実質 GDP) 成長率	8.2% (2012年: IMF)
物価上昇率	12.1% (2012年: IMF)
失業率	0.2% (2010年: IMF)
貿易額	・輸出: 130.4億ドル ・輸入: 88.0億ドル (2010年: ウズベキスタン国家統計委員会)
主要貿易品目	・輸出: 石油・ガス・石油製品、サービス、綿繊維、食料品、鉄・非鉄金属 ・輸入: 機械・設備、化学製品、食料品、鉄・非鉄金属、石油製品 (ウズベキスタン国家統計委員会)
主要貿易相手国	・輸出: ロシア、中国、カザフスタン、トルコ、アフガニスタン ・輸入: ロシア、韓国、中国、カザフスタン、ドイツ (ウズベキスタン国家統計委員会)
通貨	スム (Sum: 1994年6月27日導入)
為替レート	1ドル=2,333.00スム (2014年5月現在: ウズベキスタン国立銀行)



4. 農業

農業生産額	データなし
主要農畜産物	データなし
農地面積	耕地: 435万ha、放牧地: 2,200万ha

5. 日本との関係

貿易額(単位: 百万ドル)			
年	日本の輸出(A)	日本の輸入(B)	収支(A-B)
2009	85	103	▲19
2010	77	172	▲94
2011	233	48	185
2012	98	106	▲8
2013	123	100	22

※出所: 財務省「貿易統計」よりジェトロ作成

主要貿易品目 (2013年)	・日本の輸出: 貨物自動車(41.8%)、原動機付きシャシ (14.0%)、ゴム製タイヤ (9.1%)、ガスタービン (5.7%) ・日本の輸入: 金 (96.3%)、アルミニウムの塊 (0.7%)、綿糸 (0.5%) (出所: 貿易額に同じ)
日系企業進出状況	16社 (2014年11月時点) (出所: ジェトロ・タシケント調べ)
在留邦人	117人 (2013年10月1日現在) (出所: 外務省「海外在留邦人数調査統計 (平成26年要約版)」)

(出所)

1-3: 「一般事情」「政治体制・内政」「経済」: 外務省

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/uzbekistan/index.html>

4: FAOSTAT

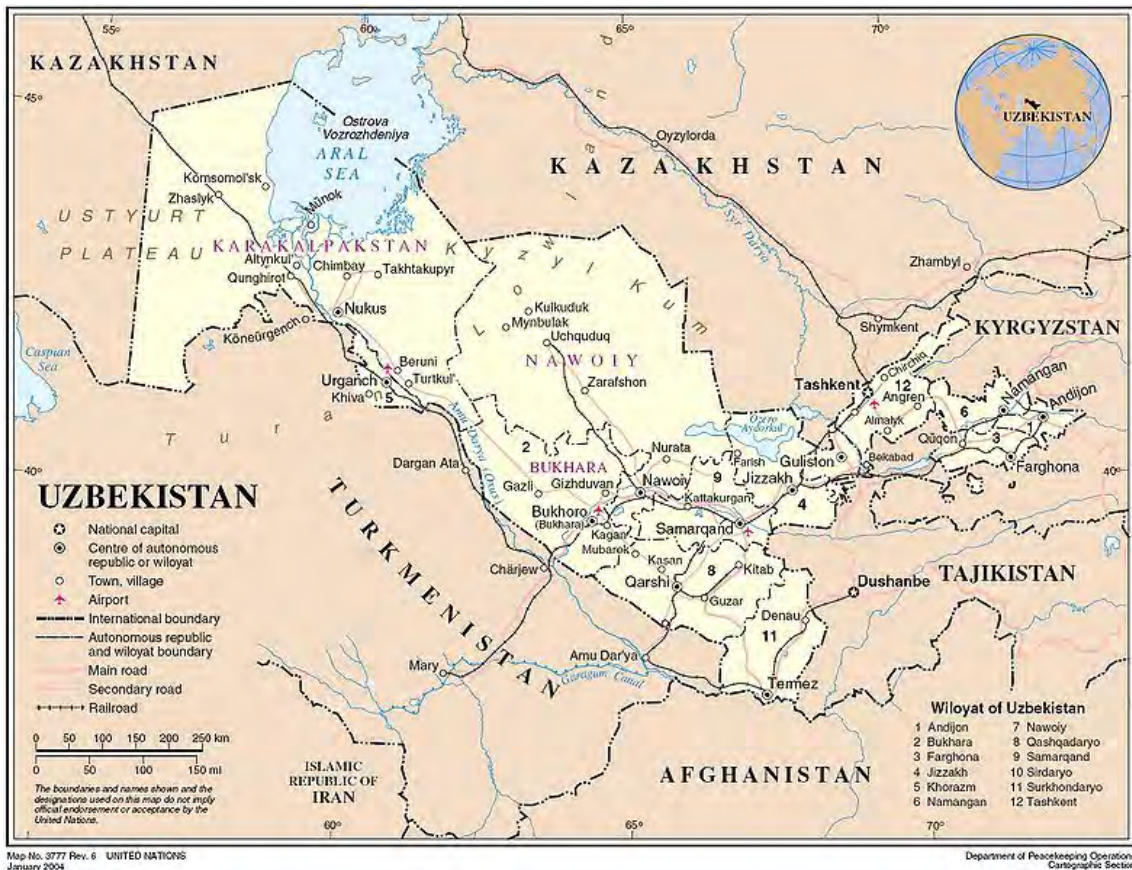
5: 「日本との関係」: 日本貿易振興機構 (ジェトロ)

<http://www.jetro.go.jp/world/>

1. 農林水産業概況

(1) 地理

ウズベキスタンはユーラシア大陸の中央に位置し、全国土面積は44万7,400㎢である。北緯37度から46度、東経56度から74度に位置する。北をカザフスタン、南西をトルクメニスタン、南東をタジキスタン、北東をキルギスと国境を接する。2度国を越えなければ海へと達しない二重内陸国家である。そのため、直接海につながっている河川はなく、国土の大部分は砂漠と険しい山岳部から構成されている。従って都市部への人口の大きな集中が見られる。

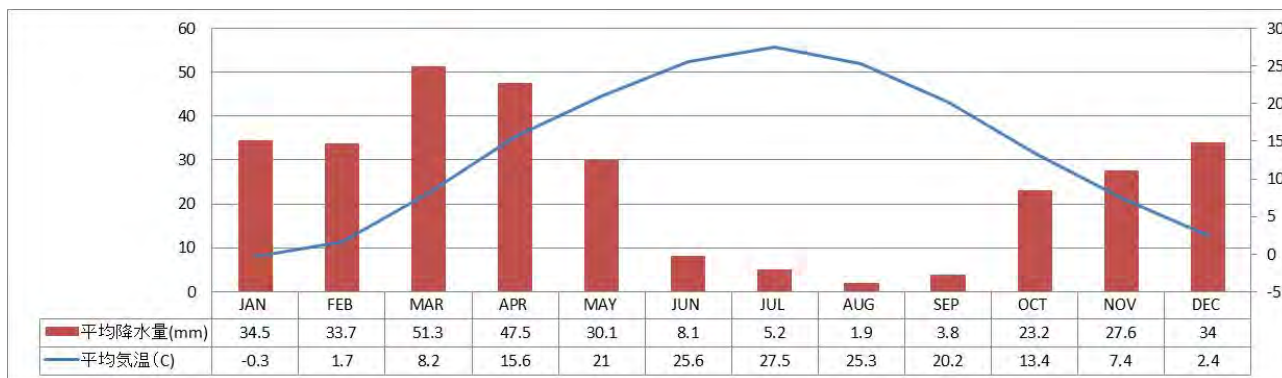


出所：WIKIMEDIA COMMONS

ウズベキスタン共和国の地形図

(2) 気候

ウズベキスタンは大陸性気候であり、夏は暑く、冬は寒く、その温度差は著しい。降水量は年間 100～200 mm ときわめて少ない。このため特に夏季は農業を行うには灌漑設備を利用するほかない。気温は 1 月で 4～-8℃、7 月で 22～32℃である。



出所：weatherbase (<http://www.weatherbase.com/>)

月平均気温と月平均降水量(左:mm、右:°C)¹²

(3) 農業政策の特徴

ウズベキスタンの独立後の農業政策は食料自給を目的とし、食料の輸入代替を図るものとなってきている。特に、主食原料となる小麦の生産が推奨され、綿花の栽培にとって代わってきている。農作物の貿易に関しては、綿花、小麦など戦略的意義を持つ農作物を栽培するための義務的面積を農家に課し、政府指定価格で指定業者に販売することを義務付けるなど、政府が積極的に関与している。

(4) 農業セクター概況

1) 土地利用

前述のようにウズベキスタンは大陸性気候であり、国土の大部分が砂漠と山岳地帯であるため、農業が行われている地域が川沿いの盆地とオアシス付近に限定されている。綿花などの農作物の生産は主にこれらの土地で行われている。その気候条件から全ての土地に国営の灌漑施設が付設されている。現在、全土の耕地面積は 400 万ha超であり、そのうち散水を必要とする土地は 87%である。

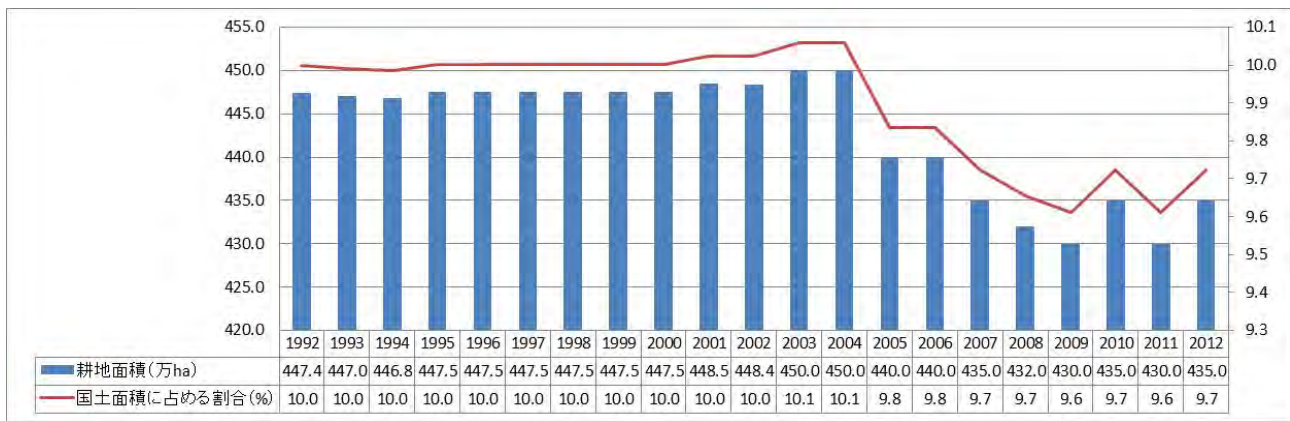
ウズベキスタンと日本の土地利用状況(万ha)

国	ウズベキスタン							日本
	1992	1995	2000	2005	2010	2011	2012	2012
国土面積	4,474.0	4,474.0	4,474.0	4,474.0	4,474.0	4,474.0	4,474.0 (100.0%)	3,780 (100.0%)
農地	2,772.4	2,764.5	2,732.5	2,674.0	2,667.0	2,663.0	2,669.0 (59.7%)	455 (12.0%)
耕地面積	447.4	447.5	447.5	440.0	435.0	430.0	435.0 (9.7%)	425 (11.2%)
永年作物地	38.0	37.0	35.0	34.0	32.0	33.0	34.0 (0.8%)	30 (0.8%)
永年牧草・放牧地	2,287.0	2,280.0	2,250.0	2,200.0	2,200.0	2,200.0	2,200.0 (49.2%)	0 (0.0%)
森林	307.8	312.9	321.2	329.5	327.6	327.2	326.8 (7.3%)	2,500 (66.1%)
その他	1,173.8	1,176.7	1,200.3	1,250.5	1,259.5	1,263.8	1,258.2 (28.1%)	691 (18.3%)
陸水	220.0	220.0	220.0	220.0	220.0	220.0	220.0 (4.9%)	134 (3.5%)

出所：FAOSTAT

(カッコ内は国土面積に占める割合)

¹² 気温：124 都市、105 年間平均。降水量：124 都市、102 年間平均。

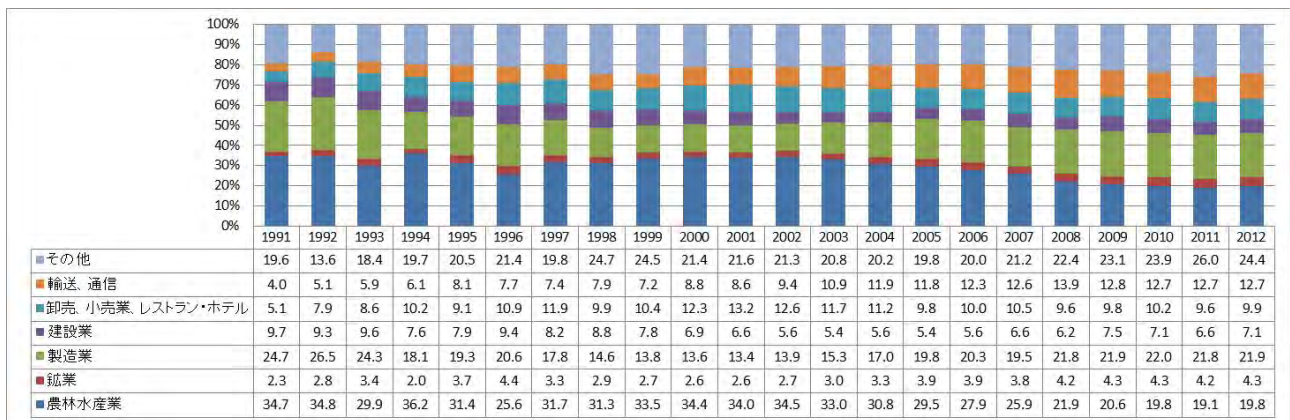


出所：FAOSTAT

耕地面積の推移(左:万ha、右:%)

2) 国内産業における農業の比重

ウズベキスタンの産業では農業が GDP 全体の約 20%を生み出しており、そのなかでも綿花の輸出が産業の中心のひとつとなっている。また鉱物採掘と鉱業も重要分野である。特に金の生産は盛んであり、生産量は世界第 7 位である。また天然ガス、石油などは国内消費だけでなく輸出にも多く当てられている。またウランの生産量は世界第 7 位、石炭の埋蔵量は世界第 10 位とその他の鉱物の生産も活発に行っている。

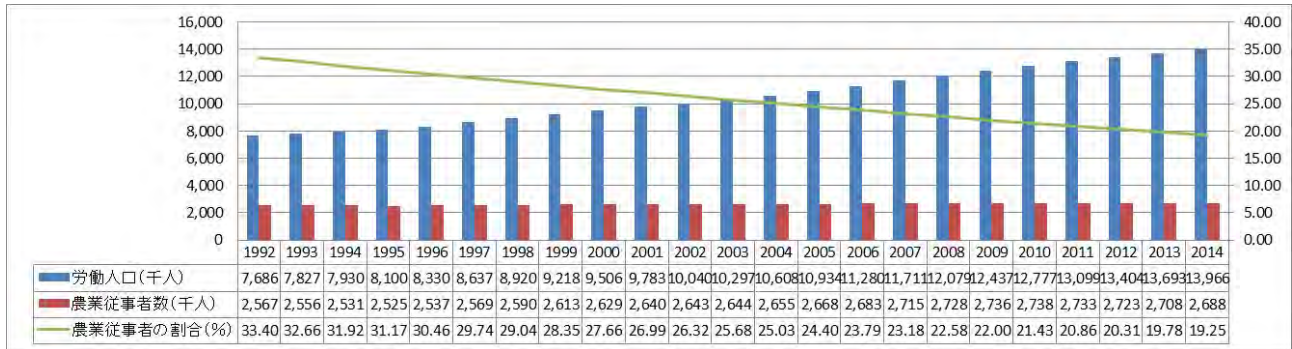


出所：国連統計

産業構造(GDP構成比)の推移(%)

3) 農業就業人口

ウズベキスタンでは旧ソ連時代は60%の国民が農村部に居住していた。ソ連崩壊直後は農業従事者の割合は、全労働者数の30%前後で維持されていたが、人口増に対して農業従事者数は減少傾向にあり、2013年以降は20%を割っている。これはロシアやカザフスタンなどへの移民として農村の労働人口が流出していることが大きな要因として考えられる。



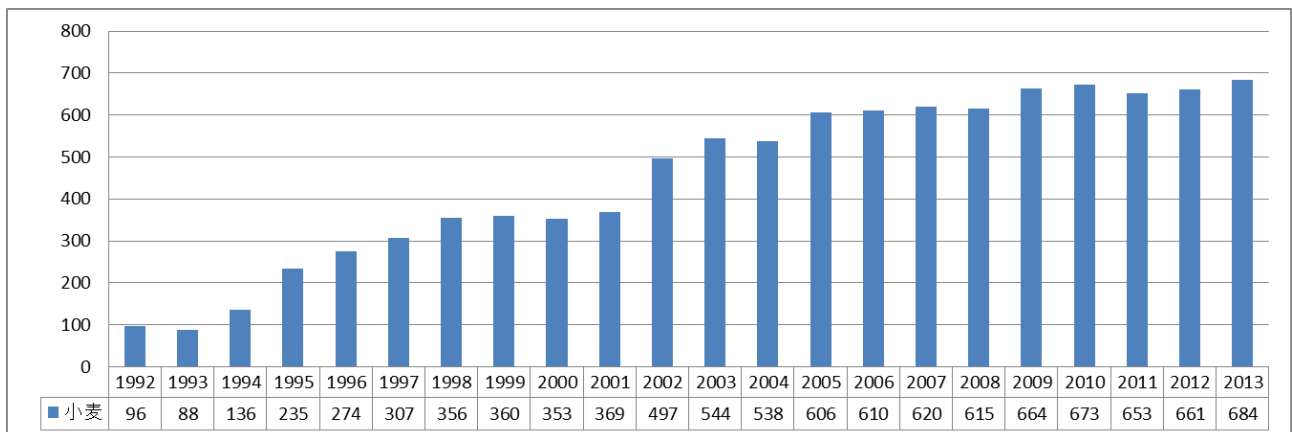
出所：FAOSTAT

農業就業人口の推移(左:千人、右:%)

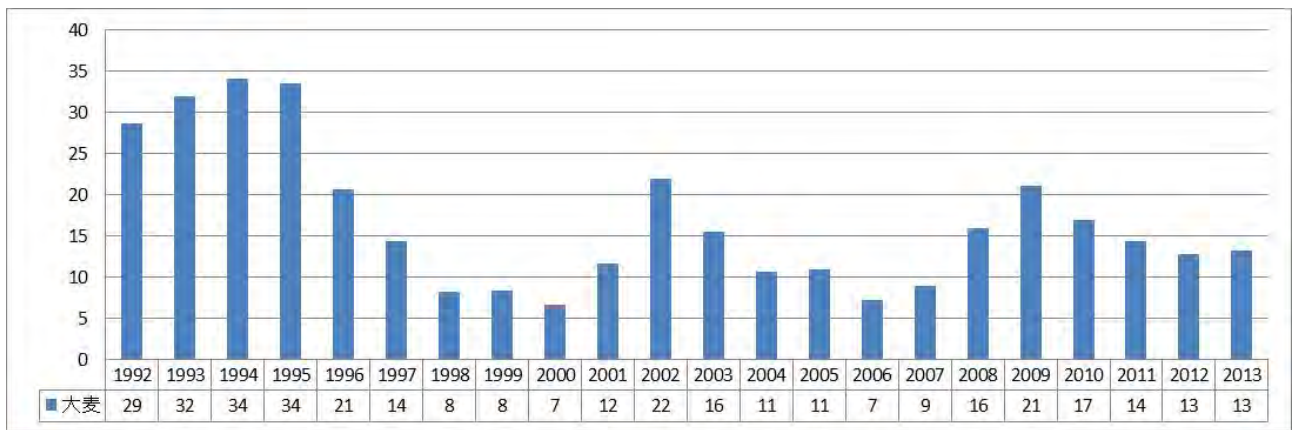
4) 農業生産の動向

①主要農産物の生産動向

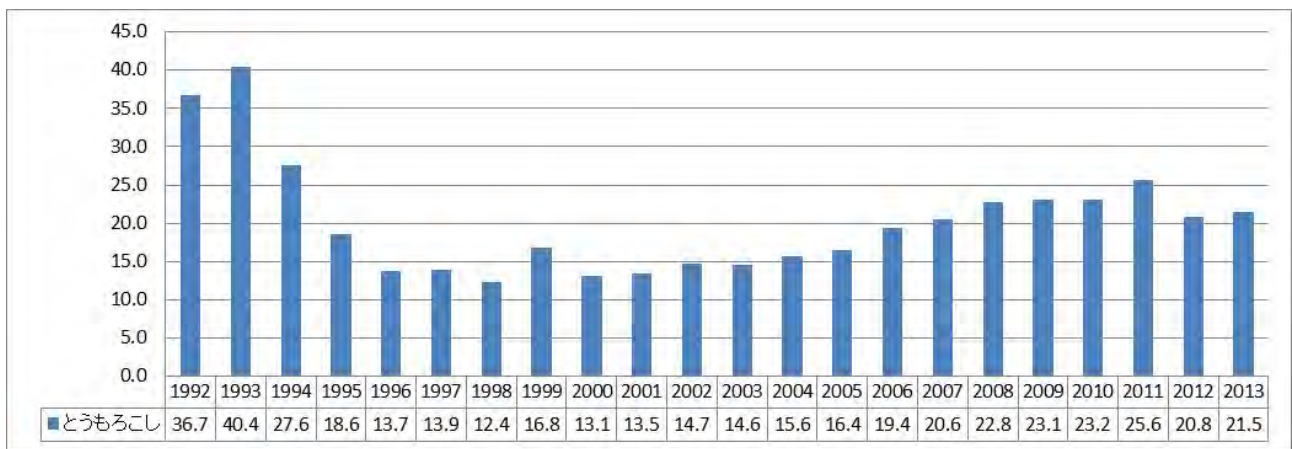
旧ソ連時代に割り当てられた共和国ごとの分業による専門化の名残で、ウズベキスタンでは綿花の栽培が中心となっている。穀物では小麦の生産量が多く、ほかに大麦、トウモロコシ、米の栽培が行われているが、綿花栽培に農業に適した土地の多くを奪われているため生産量は多くない。これらの作物はどれもウズベキスタンの気候条件下では、灌漑設備が必要となる。ソ連崩壊後、コルホーズ、ソフホーズなどが個人経営主体の中規模集団農場（フェルメル）に移行したのに伴い、灌漑設備の利用が効率化し、一部の穀物は大きく生産量を伸ばした。しかし、穀物、青果は主として国内消費に回されている。



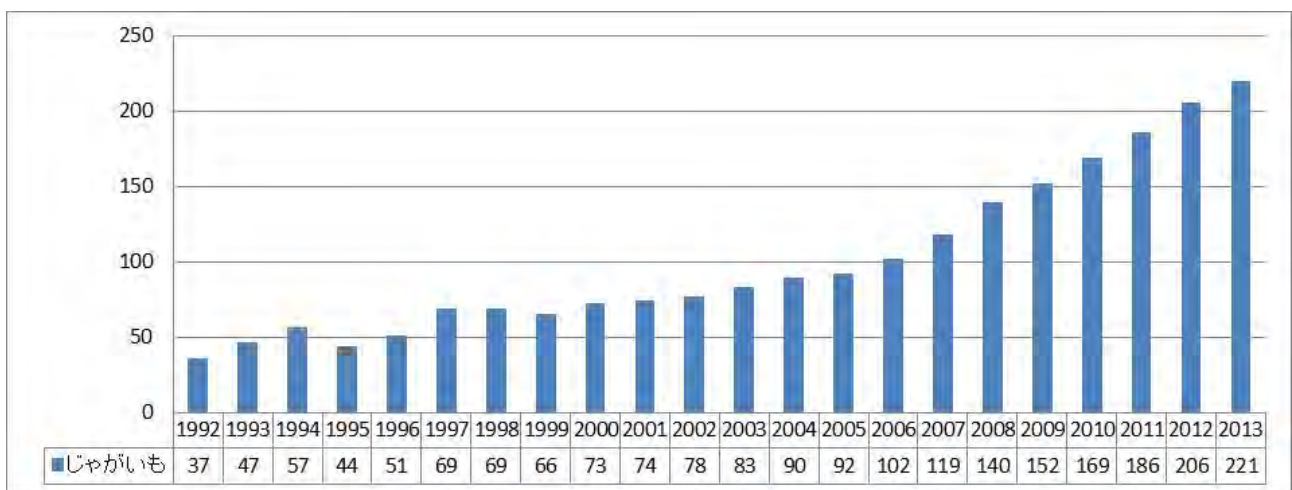
小麦の生産量の推移(万トン)



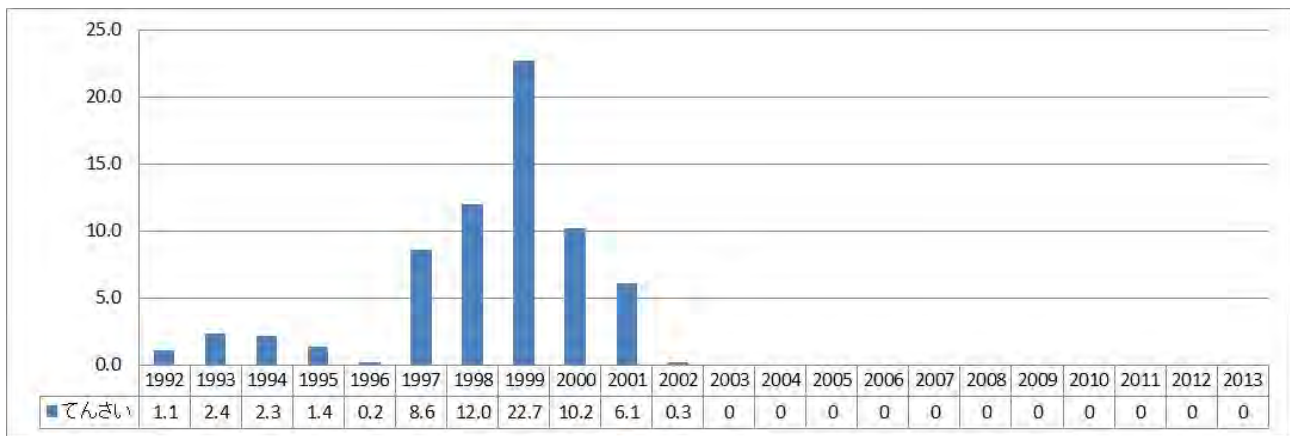
大麦の生産量の推移(万トン)



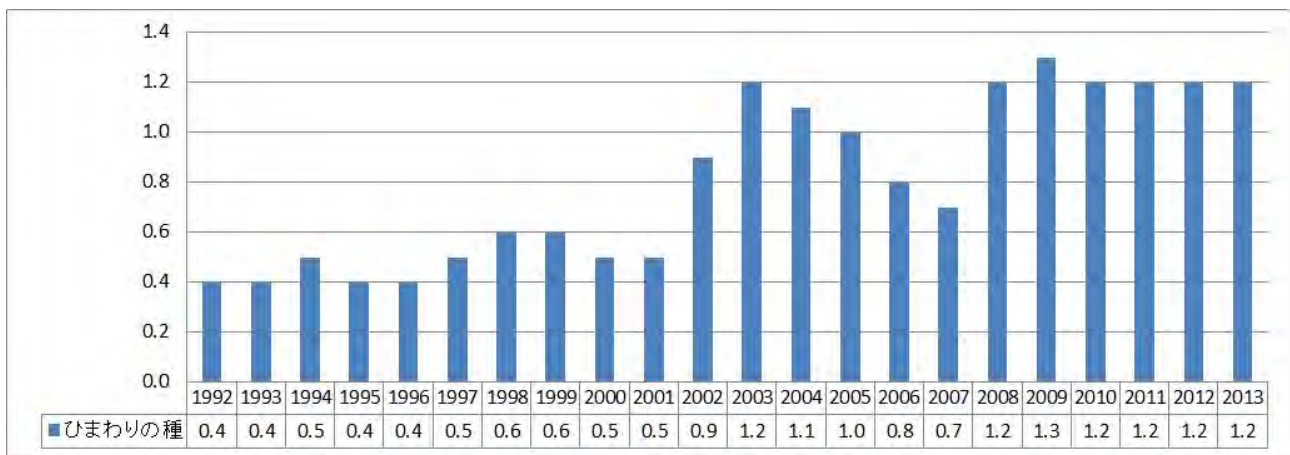
とうもろこしの生産量の推移(万トン)



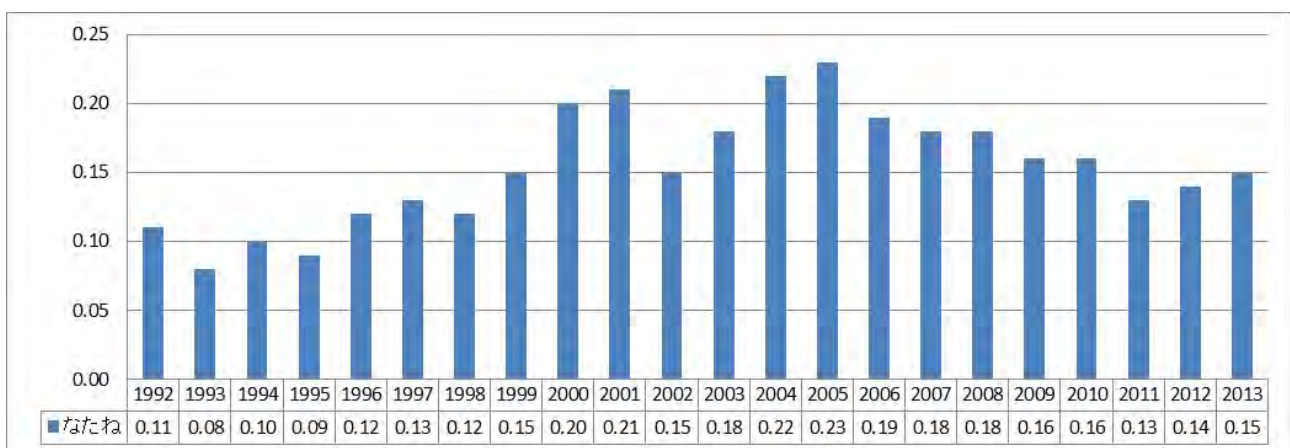
ジャガイモの生産量の推移(万トン)



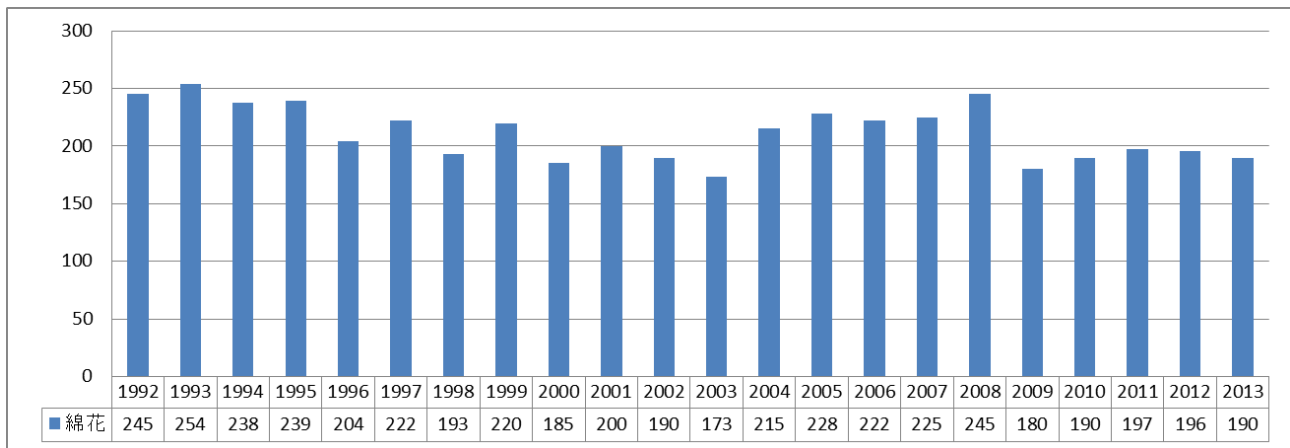
テンサイの生産量の推移(万トン)



ヒマワリの種の生産量の推移(万トン)



なたねの生産量の推移(万トン)

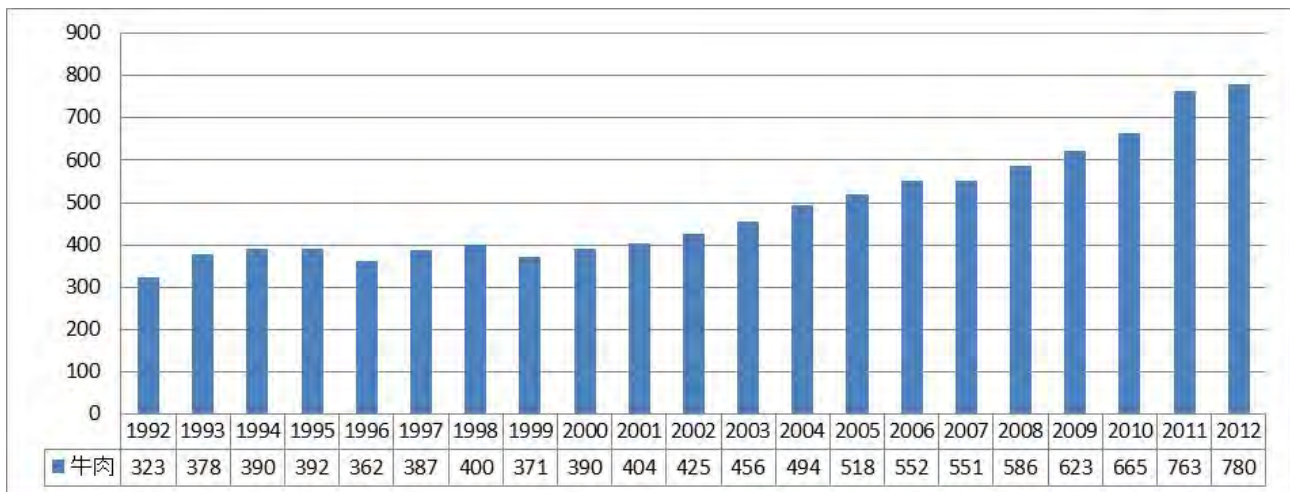


綿花の生産量の推移(万トン)

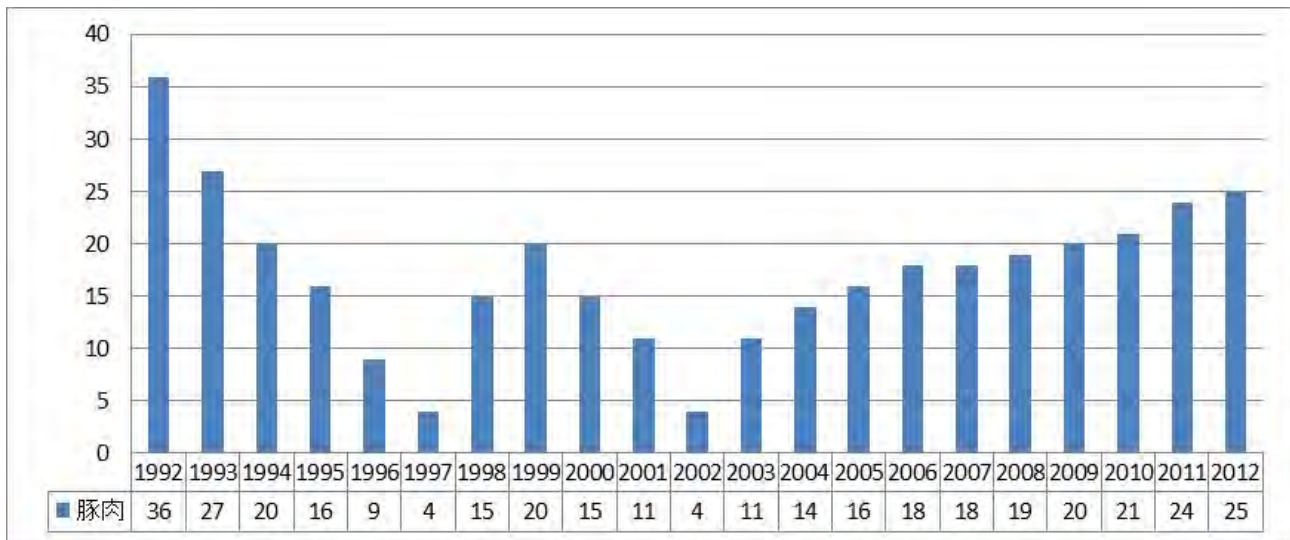
※以上 8 点、出所：FAOSTAT

②主要畜産物の生産動向

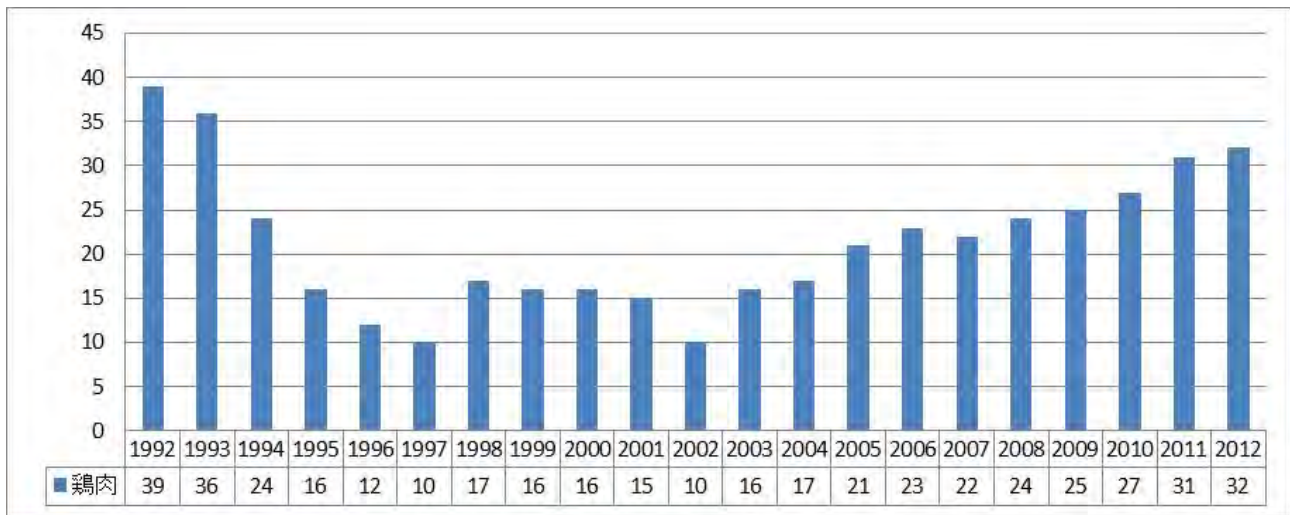
ウズベキスタンでは、伝統的な羊の飼育以外にも、牛、豚、鶏も食肉用として飼育が行われている。羊は毛皮の生産のために飼育されていたが、その輸出量は 1990 年から 2004 年の間に半減している。また年間 500 万ℓの牛乳も生産している。現在、フェルメル経営農場において外国産品種の人工授精による家畜の品種改良が積極的に行われており、牛乳の生産量は近年大きく増加している。鶏卵の生産も年々増加しており、2012 年の生産量は約 39 億個と、独立直後の 2 倍以上となっている。一方、旧ソ連時代に盛んに生産されていた蜂蜜は、1992 に比べ 20 年間で半分以下の生産量となっている。



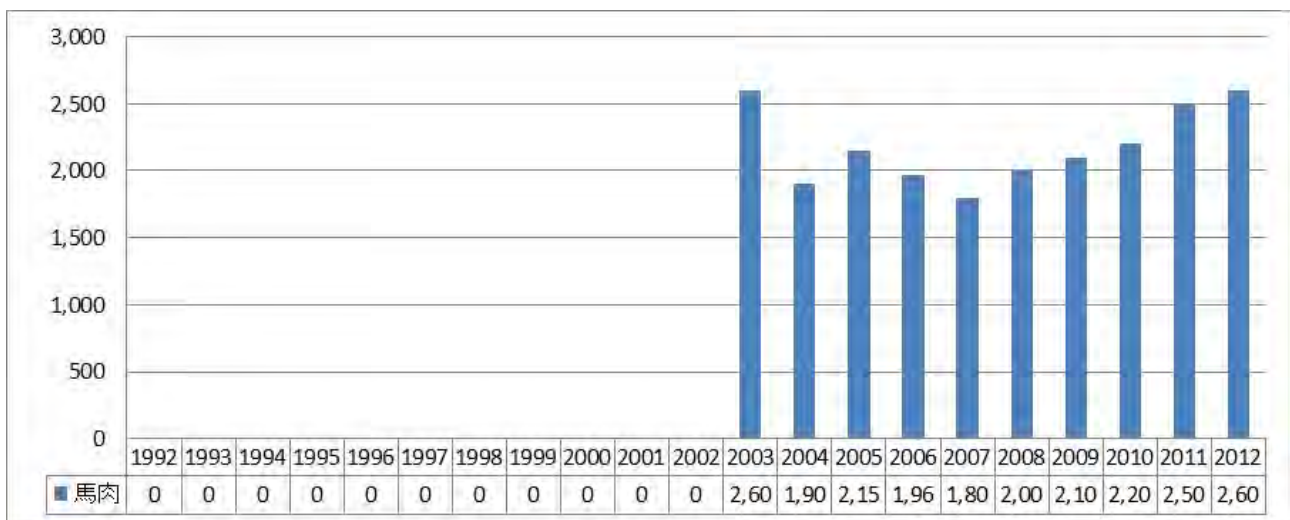
牛肉の生産量の推移(千トン)



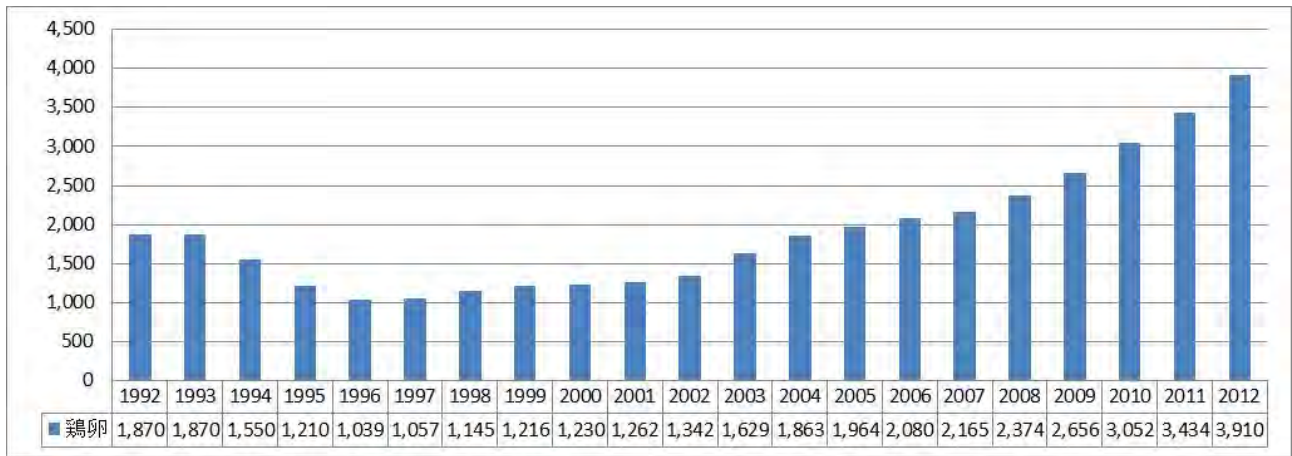
豚肉の生産量の推移(千トン)



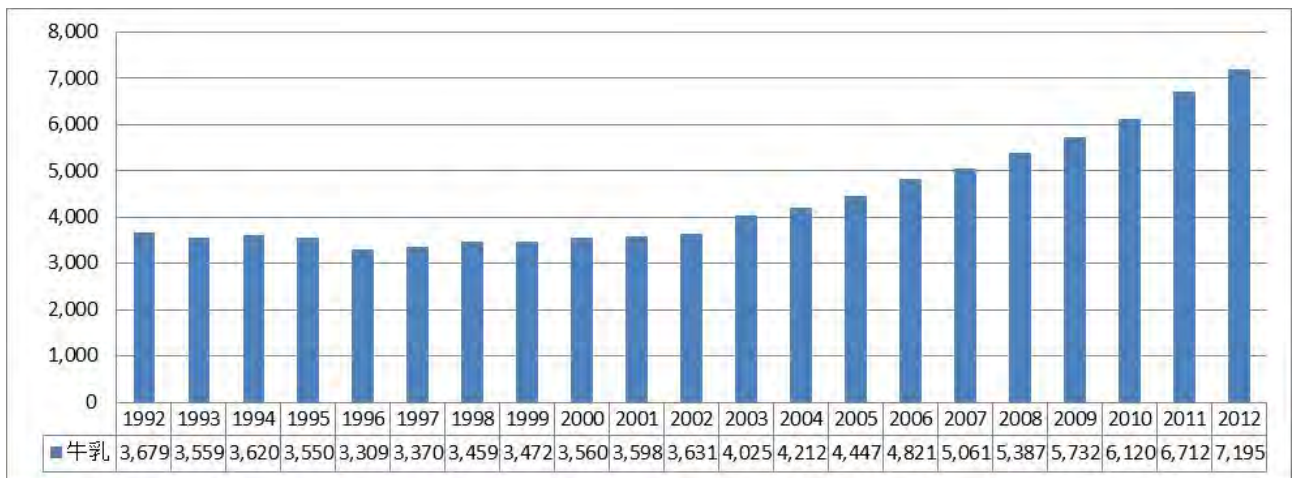
鶏肉の生産量の推移(千トン)



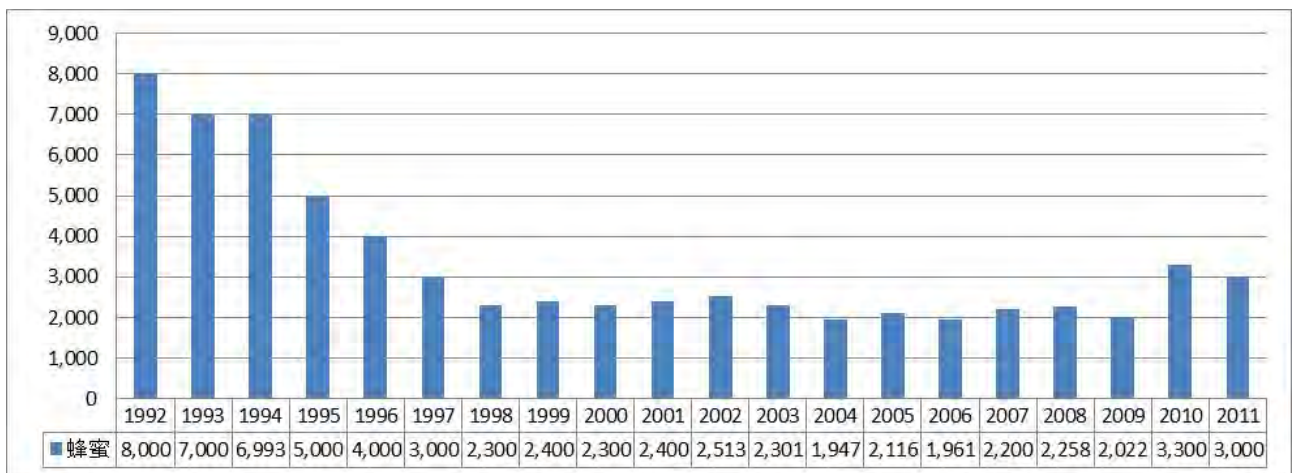
馬肉の生産量の推移(トン)



鶏卵の生産量の推移(百万個)



牛乳の生産量の推移(千トン)



蜂蜜の生産量の推移(トン)

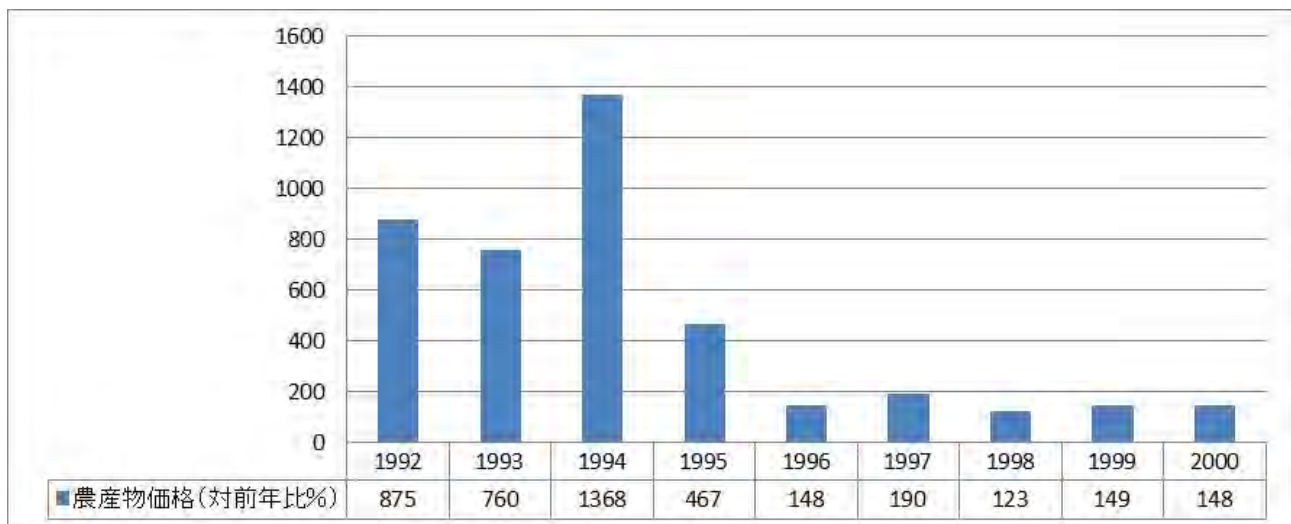
※以上7点、出所：FAOSTAT

5) 農業経営・生産組織の動向

ソ連崩壊に伴い、コルホーズ、ソフホーズ制度が解体された。その結果、ウズベキスタンの場合、「デフカンと呼ばれる伝統的な個人経営農場」、「フェルメルと呼ばれる小作農家の経営する中規模農場」、そして「シリカットと呼ばれる農業組合や農業企業などの大規模農場」の3つの形態の農業経営主体が生まれた。ウズベキスタンではフェルメル農場経営が国の農業の中心であり、全作付面積の75%を占めている。

6) 主要農林水産品の価格

ウズベキスタンはソ連崩壊後もその他の中央アジア諸国や東ヨーロッパ諸国と比較して、GDPの大きな下落はなかったため、急激なインフレが起こらず、農産品価格は、概してわずかな上昇にとどまり、大きな変動はなかった。しかしロシアは2014年以降、ウクライナ問題による西側の制裁の対抗策として、西側からの農作物の輸入を禁止し、ウズベキスタンから輸入しているので、国内市場は品薄状態となり、農産物の価格が大きく上昇している。



出所：CIS 統計委員会

農産物価格の前年比の推移(%)

2. 農林水産関係国家政策

ソ連崩壊後、ウズベキスタン政府は食料供給の安定性を図るため、国内の農業を綿花から穀物の生産へとシフトしてきた。これは輸出による外貨獲得よりも国内消費の充足を優先したためである。しかし綿花は、その後も小麦と並んで政府が価格の設定、作付面積の義務化などの法令を導入することで、重点的に栽培することを生産者に課している。この二つの戦略的農業作物の販売により得られた利潤を国内の他の部門に分配するため、概して農作物には高い税金を課しており、これは農村の発展を阻害している一因となっている。

ウズベキスタン大統領決定

2012-2016年における農業生産の近代化、技術・テクノロジー改革プログラムについて
(ウズベキスタン共和国上院公報 2012年№5、139頁)

農業および加工産業部門を世界基準に合致するよう、農業技術・テクノロジーの設備水準を向上し、外国の農業機械や投資を誘致するために、以下のことを決定する。

1. 農業・水産省の作成した本決定を承認する。

プログラム作成の協力機関は、経済省、金融省、リース株式会社「ウズセリホズマシュリージング」社、農業機械企業協会「ウズアグロマシュセルヴィス」である。

内容は以下の通り。

- ・2012-2016年における国産の各種農業製品の生産および改良に関する予測的指標（付録1【省略】）
- ・2012-2016年における農業・土地改良機械、輸送手段、生産・加工用設備の新しい生産体制プロジェクトのリスト（付録2,3【省略】）
- ・機械製作、電子機器および航空産業の発達、農業機械問題担当の各省庁、および投資プロジェクト担当の各省庁と商業銀行の編成（付録2,3【省略】）

2. 本決定の実現の調整に関する省庁間委員会を組織する。（付録4【省略】）

省庁間委員会は、ウズベキスタン対外経済関係・貿易省と協力して全ての種類の農業技術の展示会を毎年9月1日までに実施し、最良の品質と国際基準に合致する農業機械を選ぶための提案を9月15日までに内閣に提出する。

省庁間委員会は、綿花、飼料用作物、野菜、果物、ブドウ栽培のような農業のリーディング部門において土壌肥沃化、植え付け、収穫の最新技術に関する専門事務局の設立に関する提案を2カ月以内に提出する。

3. 省庁間委員会は、農業・水産省、経済省、金融省、農業機械企業と協力して、農業・土壌改良技術の生産量および購入量、さらに投資プロジェクトの実現期限を、農業生産技術の市場および発展の状況を考慮しながら、適時修正する。

4. 本決定は、ウズベキスタン共和国中央銀行の再融資利率以下の金利で、以下の部門の農業生産技術の近代化と改革に関する融資とリースサービスを提供するよう、商業銀行に勧告する。

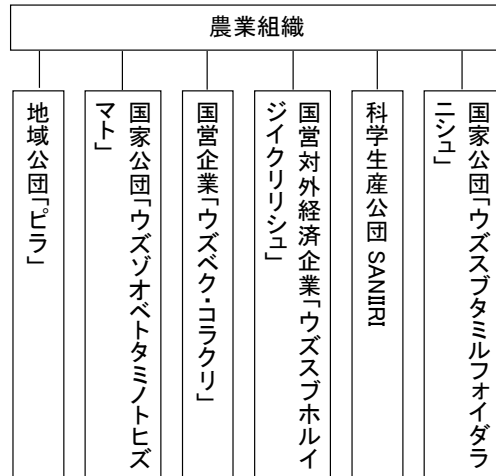
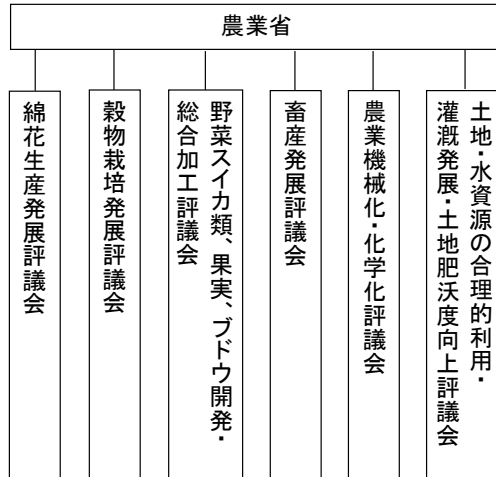
- ・農場、機械・トラクター基地、農業機械企業協会の地方支部が農業技術製品を取得する際の融資。さらに必要な設備によりサービス網を革新する際の融資。
- ・農業・土壌改良技術の国内生産者、農業生産者にサービスを提供するリース会社に流通資本を提供する際の融資。

5. 本決定は以下の手順を定める。
- ・農業技術の購入者（契約会社）は、翌年の取得のために、その前年の10月1日までに、支払いと供給期限を記した購入・販売契約を国内の農業機械企業と締結する。
 - ・国産の農業技術に対しては、契約書に記載された供給期限の3カ月前までに所定価格の70%以上を前払いする。
 - ・ウズベキスタン共和国金融省の支援による「農村への農業機械提供国家促進基金」によりリースで農業技術を取得する場合には、付録5に従った支払い条約に基づき行われる。（付録5【省略】）
 - ・内閣は、農作物の耕作面積や機械労働の分量などを考慮して、需要に基づいた農業技術取得手続きを、融資元ごとに承認する。
6. 本決定は、契約会社の適切な組織化および農業技術の部品取得およびサービス提供契約の締結に対し職務上の責任を、カラカルパキスタン共和国閣僚会議長、各州・地域の長に課す。
7. 本決定は、農業技術企業の、開発研究、実験・設計作業への投資コストを、販売される製品の原価の1%と定める。
8. 本決定は、農業機械企業が、付録2で定められたプロジェクトの枠内で、新種の技術、ユニットおよび部品を開発する際には、外国のリーディングカンパニーとのリース協定を含め、以下の税を免税とする。
- ・新種の技術、ユニットおよび部品の販売の所得税
 - ・新種の技術、ユニットおよび部品の資産税
9. 本決定は、経済省、金融省、司法省、その他の関連省庁に対し1カ月以内に以下のものを内閣に提出することを定める。
- ・本決定の実現に関する各種施策
 - ・本決定から生じる法令の修正および追加に関する提案
10. 本決定の執行の管理は、ウズベキスタン共和国首相 Sh.M.ミルジヨエフ、ウズベキスタン共和国大統領 I.カリモフに課す。

2012年5月21日、タシケント

No.PP-1758

3. 農林水産関係政府機関・団体

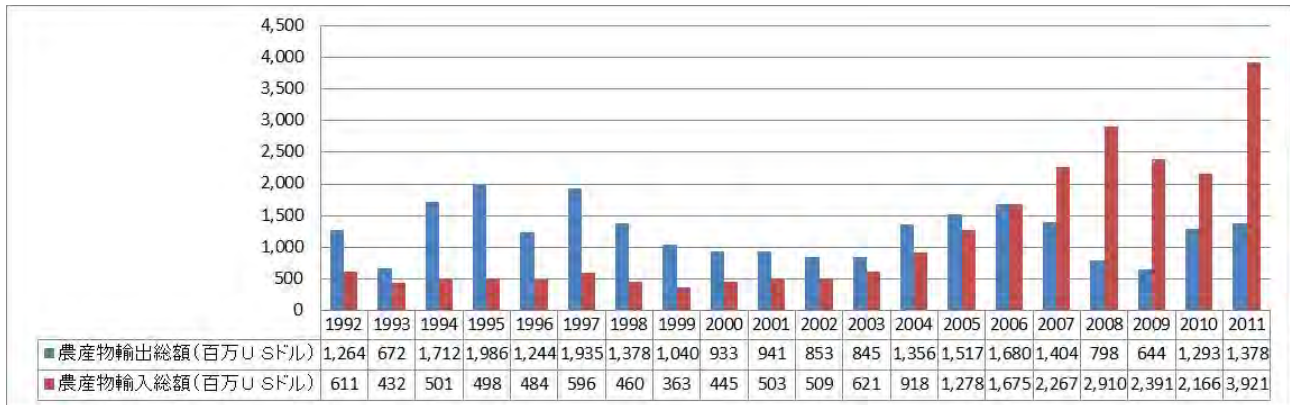


出所：ウズベキスタン政府 HP

4. 農林水産貿易の概況

(1) 貿易状況

ウズベキスタンではその気候特性により農業生産が行える土地が限られているため、農作物に関しては輸出よりも輸入量をはるかに上回っている。生活必需品である農産品目の生産量の大部分が国内消費に回されているためである。そのため、国内の農業生産がこれまで主流だった綿花栽培から穀物栽培へとシフトしてきているため、輸出に大きな部分を占めていた綿布の輸出量は大きく減少している。



出所：FAOSTAT

農産物輸出入総額の推移(百万米ドル)

(2) 輸出

農産品の輸出では、ソ連時代から生産量の多い綿布が中心である。綿布の輸出高は2006年時点で70～80万トンでありし、全輸出額の17%を占めている。しかし近年、対欧州を中心にそれ以外の農産物の輸出も増えている。2015年にはEU加盟諸国に1億ユーロ超の農作物などを供給することになっている。輸出されるのは果物、ウリ科植物、ブドウ、ドライフルーツ、ジュースやジャムなどの加工食品である。また2014年以降、ロシアがウクライナ問題による西側の制裁に対する措置として、欧州諸国からの農作物の輸入を禁止しているため、その代替策としてウズベキスタンから輸入しているため、現在、ロシア向けの農作物の輸出量が大きく増大している。

輸出農産物上位5品目(2011年)

品目名	輸出額 (百万米ドル)	農産物総額に 占める割合 (%)
綿布	646	46.9
ブドウ	132	9.6
トマト	61	4.4
桃とネクタリン	39	2.8
小麦	35	2.6
上位5品目計	913	66.2
上記以外農産物計	465	33.8
農産物総額	1,378	100.0

出所：FAOSTAT

(3) 輸入

前述のように、ソ連崩壊後は農作物の輸入依存度がきわめて高かったが、食料品の安定供給の保障のために、ウズベキスタン政府は穀物生産に重点的に支援を行った。その結果、1991年から2013年の間に穀物の作付面積が5.5倍となり、これらの生活必需品の輸入量は減少した。しかし国の輸入代替政策のため、農作物に高い関税が設定され、また中国などの安価な製品の輸入が制限されているため、農作物の輸入金額は上がり、輸入高全体は上昇傾向にある。

輸入農産物上位5品目(2011年)

品目名	輸入額 (百万米ドル)	農産物総額に 占める割合 (%)
小麦粉	364	28.2
ひまわり油	194	15.0
精製糖	178	13.7
小麦	105	8.1
お茶	46	3.5
上位5品目計	886	68.5
上記以外農産物計	407	31.5
農産物総額	1,293	100.0

出所：FAOSTAT

5. 農業投資状況

(1) 農業投資概況

ウズベキスタンの農業部門における投資額は投資全体の比率で見るときわめて小さい。しかし農業部門のインフラおよび農業プロジェクトのために、世界銀行、アジア開発銀行、イスラム開発銀行など総額7億米ドルの直接投資を受けている。そのうち外国投資は70億スムである。また8つのプロジェクトに対し447万米ドルの直接外国投資を受けている。

政府による全投資に占める部門別の割合の推移(%)

部門	1999	2005	2010
工業	32.6	29.9	28.6
農業・漁業・林業	8.2	3.2	3.1
建設	0.3	0.8	2.0
輸送・通信	13.0	20.2	29.2
商業(自動車修理、日用品等)	2.2	1.3	4.7
その他	43.7	44.6	32.4

出所：CIS統計委員会

(2) 他ドナーによる支援

1) アジア開発銀行 ADB

プロジェクト名	47305-001 農業近代化のための改革
支援の種類	技術支援 (承認番号 8567)
資金供与	公的分野 (Sovereign)
ADB 資金供与額	100 万米ドル
承認日	2013 年 12 月 13 日
概要	当該技術支援は、農業戦略の重要な側面に取り組むことによって 2012-2015 年の福祉向上戦略と国際労働基準の向上に向けた国家の取組みを支援するものである。

プロジェクト名	44318-025 総合農村開発のための住宅建設プログラム (HIRD) (第 2 期)
支援の種類	融資 (承認番号 3039)
承認日	2013 年 10 月 1 日
ADB 資金供与額	2 億米ドル
概要	総合農村開発のための住宅建設プログラム (HIRD) は経済の総合的成長と多様化を目指す 2012-2015 年のウズベキスタン福祉向上戦略 (WIS) の優先分野である。HIRD は経済改革と農村開発の加速を推進するものとして、農村住宅に焦点を当てている。

プロジェクト名	44458-013 アム・ブハラ灌漑システム再建プロジェクト
資金供与	公的部門 (Sovereign) (承認番号 3025、3026)
承認日	2013 年 9 月 25 日
ADB 資金供与額	2 億 2,000 万米ドル
概要	ウズベキスタン中央部ブハラ州の 2 地方およびナボイ州を対象とする。アム・ブハラ灌漑システムに含まれる 25 万 ha の土地の灌漑用水と 72 万 5,000 人の飲料水を持続的かつ確実に供給することを目指す。

プロジェクト名	45437-001 水資源管理
支援の種類	技術支援 (承認番号 8226)
資金供与	公的分野 (Sovereign)
ADB 資金供与額	150 万米ドル
承認日	2012 年 11 月 27 日
概要	プロジェクト準備技術支援 (PPTA) に必要な 150 万米ドルは ADB の技術支援特別基金から提供される。PPTA は水資源管理を改善し、地域における農業生産性を向上させることによって関連地域の福祉を向上させる投資プロジェクトを設計する。

プロジェクト名	44318-023 総合農村開発のための住宅建設プログラム（HIRD）第1部
支援の種類	融資（承認番号予算 2775）
承認日	2011年9月9日
ADB 資金供与額	2億米ドル
概要	政府の財政部門戦略と新中小企業プログラム（MSME）との調整を含め、政府の農村開発プログラム（RDP）と農村住宅制度（RHS）における農村部の生活水準向上の効果を高めるものである。

プロジェクト名	40086-013 水資源管理部門プロジェクト
資金供与	公的部門（Sovereign）
支援の種類	融資（承認番号 2492、2493）
承認日	2008年12月17日
ADB 資金供与	1億米ドル
概要	灌漑・排水インフラの再建および更新、水資源管理の能力向上のための ADB の支援を継続するものである。

プロジェクト名	37536-013 土地改良
資金供与	公的部門（Sovereign）
支援の種類	融資（承認番号 2245、2246）、技術支援（承認番号 4820）、交付金（承認番号 0080）
承認日	2006年7月24日
ADB 資金供与	6,040万米ドル
概要	土地の劣化はウズベキスタンおよびその他の中央アジア諸国の深刻な経済的、社会的、環境的問題である。プロジェクトはカシュカダリヤ州、ナボイ州、ブハラ州の9地方の16万2,300haの土地の急速な劣化の拡大防止を目的としている。

2) 国際連合食糧農業機関 FAO

戦略目標別プロジェクト

ウズベキスタンの企業のために FAO 資金により進行中のプロジェクト (2014 年 1 月 1 日現在)

技術協力プログラム(TCP)

記号	名称	期間	予算総額 (米ドル)	2014/1/1 現在 使用可能額
TCP/SEC/ 3402	水産養殖と養殖漁業の気候変動への適応力の強化	2013-2015	371,000	358,752
TCP/SEC/ 3403	中央アジアにおける国家植物衛生監督業務の強化	2014-2015	425,000	0

FAO 信託ファンドと国家の共同プログラム(TF/GCP)

記号	名称	期間	予算総額 (米ドル)	2014/1/1 現在 使用可能額
GCP/INT/ 123/MUL	経済協力機構加盟国における種子部門の発展	2013-2015	400,000	323,432
GCP/RER/ 031/TUR	水産業および水産養殖発展のための中央アジア地域プログラム(FISHDEV - CA)	2009-2014	1,799,998	275,341
GCP/RER/ 040/EC	旧ソ連における危険な化学物質を含むために廃止された未使用の農薬の再使用の防止能力の改善	2012-2015	8,000,001	5,252,688
GCP/RER/ 044/TUR	食糧安全保障のための ECO 地域調整センター (RCC-FS)	2013-2016	499,211	341,644
GCP/SEC/ 001/TUR	中央アジア諸国における牛の生産性向上	2011-2014	600,000	323,661
GCP/SEC/ 002/TUR	中央アジアおよびコーカサスにおける山岳部流域の持続的 management のための能力開発	2012-2014	300,000	231,294
GCP/UZB/ 002/TUR	越境河川ポトシャオタ流域のウズベキスタンの水不足地域における節水技術の推進	2012-2014	221,987	176,994

3) 世界銀行

プロジェクト名	南部カラカルパキスタン水資源管理改善プロジェクト
プロジェクト ID	P127764
国名	ウズベキスタン
地域名	ヨーロッパおよび中央アジア
認定	2014 年 6 月 12 日
終了	2021 年 9 月 30 日
プロジェクト総額	3 億 3,743 万米ドル
拠出額	2 億 6,079 万米ドル
概要	持続的かつ財政面で効率的な方法で、当該地域の灌漑を再建し、水管理を改善することを目的とする。

プロジェクト名	持続的農業および気候変動緩和プロジェクト
プロジェクト ID	P127486
国名	ウズベキスタン
地域名	ヨーロッパおよび中央アジア
承認	2013年1月29日
終了	2016年12月31日
プロジェクト総額	1億2,066万米ドル
拠出額	0
概要	次の2つを目的とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・アグリビジネスおよび農場に関連する再生可能エネルギーとエネルギー効率向上技術の導入 ・該当地域における劣化した灌漑地の改良と水の保全

プロジェクト名	フェルガナ渓谷水資源管理プロジェクト
プロジェクト ID	P110538
国名	ウズベキスタン
地域名	ヨーロッパおよび中央アジア
承認	2009年9月24日
終了	2016年7月31日
プロジェクト総額	8,185万米ドル
拠出額	6,554万米ドル
概要	該当地域において農地水没の影響を受ける農業生産を改善し、地下水の水位上昇と塩分濃度の上昇による住宅およびインフラのダメージを減少させることを第一期の目的とする。